

省エネ家電フォーラム2009

省エネ家電で 地球環境が変わる！！

～「つくる・えらぶ・つかう」の現場から
未来を考える～

【実施結果報告】

2009.10.21

省エネ家電普及促進フォーラム事務局

はじめに

平成21年10月21日(水)、東京国際フォーラムにて、「省エネ家電で地球環境が変わる!!～『つくる・えらぶ・つかう』の現場から未来を考える～」をテーマに、「省エネ家電フォーラム2009」を開催しました。

増子輝彦経済産業副大臣をはじめ、白石順一環境省総合環境政策局長、武井俊幸経済産業省大臣官房審議官、齋藤圭介資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長を来賓として迎え、約250名の出席者が集まる中、省エネ家電普及促進フォーラムの役員選出に続き、1年間の活動報告や、今後の活動について説明が行われ、次いでノンフィクション作家の山根一真氏をモデレーターに、各界代表者らによるパネルディスカッションが行われ、活発な意見が交わされました。

来賓：
増子 輝彦 経済産業副大臣
白石 順一 環境省 総合環境政策局長
武井 俊幸 経済産業省 大臣官房審議官 IT戦略担当
齋藤 圭介 経済産業省 資源エネルギー庁
省エネルギー・新エネルギー部長



ご来賓挨拶



増子輝彦 経済産業副大臣

増子輝彦 経済産業副大臣より、「温室効果ガス25%削減は、日本の今後の成長戦略の大きな柱。省エネ、技術革新を進めながら、国民生活を豊かにし、ビジネスとして大きくしていくために、フォーラムの皆様にも頑張っていたきたい。経産省もバックアップしていきたい」と期待を寄せられました。

白石順一 環境省総合環境政策局長からは、「特に力を入れているのは、環境に良い製品をどんどん使っていただくことで環境を良くし、CO2削減に結び付けていくこと。家庭のCO2排出量はこの20年で40%も増えているが、削減努力の余地がある。エコポイントについても環境の観点から継続を訴えている」とのお言葉をいただきました。



白石順一 環境省総合環境政策局長

会長挨拶



下村節宏 会長

再任された下村節宏 会長からは、「本フォーラムは一昨年10月、省エネ家電の普及促進を目的に発足し、さまざまな活動を行ってきた。今年5月からは、「エコポイントの活用によるグリーン家電の普及促進」をテーマに活動しているが、買換えが大幅に促進された。エコポイント事業は、エネルギー削減、CO2削減に貢献するものであり、事業の継続・拡充を心より願う。本フォーラムの活動が、わが国のエネルギー消費並びにCO2排出に対して、継続的な効果ある削減につながることを祈念したい」との挨拶がありました。

第一部

活動報告、今後の活動について

澤田武男 事務局長からの活動報告のほか、

中村一幸 幹事会議長から、フォーラムの今後の活動についての説明がなされました。

また、「エコポイントの活用によるグリーン家電普及促進事業」(吉本 豊 経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課長)、及び、「省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」」(小森 繁 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室長)について、紹介されました。

今後の活動について:

中村一幸 幹事会議長から、フォーラムの今後の活動についてご報告し、
更なる省エネ家電普及促進を図っていくために、
情報提供として、

- (1)フォーラムWebサイトでの情報提供の充実
- (2)全国の小中学校を対象とした省エネ出前授業による情報提供(継続)
- (3)展示会(「エコプロダクツ2009」、「ENEX20010」)への出展
- (4)「“省エネ家電”おすすめBOOK」、「しんきゅうさん」等の情報提供ツールの有効活用

などを実施していくとともに、

冬の統一キャンペーン(平成21年11月20日(金)～平成22年1月20日(水))
の実施計画についても発表いたしました。



今後の活動について説明する、中村幹事会議長

エコポイントの活用によるグリーン家電普及促進事業について:



エコポイント事業について説明する、吉本情報通信機器課長

吉本 豊 経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課長より、
事業の概要及びスケジュール等について説明があり、交換商品について、
「LED電球等の省エネ効果の高い照明器具も店頭で交換可能」と説明がありました。また、「5月中旬から5ヶ月間のエコポイント対象商品(テレビ、エアコン、冷蔵庫)の売上高が前年比1.2倍と増加しており、フォーラムの活動の中で、エコポイント制度の普及に大変協力頂いた成果が、正に数字に現れている」と紹介がありました。

省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」について:

小森 繁 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室長より、
「しんきゅうさん」の仕組みと利用状況等の説明があり、これまでの診断アクセス数が、パソコンを通じたもので約230,000回、また、携帯電話を通じたもので約45,000回に上ったことが紹介されました。また、今年度、エコポイント対応機能を追加したことや、今後も、新たな機種追加やユーザビリティ向上等を検討していくことなどの説明がありました。



「しんきゅうさん」について説明する、小森生活対策室長

第二部

パネルディスカッション

第二部では、「省エネ家電で地球環境が変わる!!」～「つくる・えらぶ・つかう」の現場から未来を考える～」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。

ノンフィクション作家の山根一眞氏をモデレーターに、製造、販売、消費者、行政の代表5氏をパネリストに、それぞれの立場から、省エネ家電を普及することの重要性を訴えられました。



会場の様子

パネルディスカッション出席者:

パネリスト : 製造事業者代表

梅村 博之 財団法人家電製品協会 政策審議会 委員長/三菱電機株式会社 役員理事
リビング・デジタルメディア事業本部 副事業本部長

販売事業者代表

北原 國人 省エネ家電普及促進フォーラム副会長/全国電機商業組合連合会会長
加藤 周二 省エネ家電普及促進フォーラム幹事、キャンペーンWG座長/株式会社ビックカメラ
取締役CSRO

消費者代表

三村 光代 省エネ家電普及促進フォーラム幹事/社団法人日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント協会 最高顧問

経済産業省代表

坂本 敏幸 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部
省エネルギー対策課長

モデレーター : ノンフィクション作家 山根 一眞氏

発言要旨



梅村博之氏

製造事業者代表の梅村博之 家電製品協会 政策審議会 委員長は、エコポイント制度は、メーカーにとっても大変価値ある制度。対象機種が大幅に伸びており、今後も継続されれば、開発投資も、エコポイント対象機種に投資されるようになる。メーカーとして、省エネ機種の効果的な普及拡大とCO2削減に大きく寄与できた。是非、エコポイント制度の継続と対象機種を広げていただきたい。メーカーとしても、ハードの省エネに加えて使い勝手などソフトの省エネも開発していきたい」と述べられました。

販売事業者代表の北原國人 副会長は、

「エコポイントは消費者にも喜ばれる、非常に時宜を得た制度だ。エコポイントの交換処理をもっと早くしていただければ、対象商品の動きも早くなる。来年度も継続し、エコを中心とした政策を進めていただきたい。また、一般のお客様はフォーラムのことを知らない。お客様に、フォーラムが省エネに貢献していることを分かっていただく為に、トイレトペーパーや旗などのグッズを用意し、全国の地域店でPRを一生懸命やっていると考えている」と語られました。



北原國人氏

第二部



加藤周二氏

同じく、販売事業者代表の加藤周二 幹事は、

「エコポイントはとても効率的な制度で、3,000億円のポイントの予算で、3兆円分の省エネ家電の購入に繋がるし、3,000億円分のポイントのほとんどが消費に回る。来年度も継続して欲しいし、冷蔵庫、エアコンのポイントの比率を10%に上げて欲しい。照明もエコポイント対象商品に加えるなど、拡充をして欲しい。また、LED照明を外壁に使っていることを館内放送で伝えるなど、我々自身も省エネに努力し、お客様と、地球問題や、省エネに対する価値観を共有していきたいと思う」と述べられました。

消費者代表の三村光代 幹事は、

「エコポイントは消費者にとって歓迎できる制度だが、ポイントをもっと簡単に入手できれば、消費者の行動にもっとスムーズに結びついたのではないかと思う。消費者の中には、よく分かってはいるが、ライフスタイルは変えたくないという方がたくさんいる。そういう方が、エコポイントの対象商品を買う方向に動いてくれたのだろうと期待している。こういう会場に集まる人の半分が主婦であつたら良いと思う。私もそのために努力していきたいと思う」と語られました。



三村光代氏



坂本敏幸氏

また、経済産業省代表の坂本敏幸 省エネルギー対策課長は、

「これまで、トップランナー基準のような規制を導入し、省エネ家電を後押しするとともに、支援策として、エコポイント制度、省エネ大賞などの各種表彰制度を実施してきた。最も重要な活動として、家電フォーラムを立ち上げた。本日の議論を伺って、このフォーラムのような場があること自体が、非常に有意義だと感じた。フォーラムには、地域22,000店と大型の量販店、メーカー、消費者団体も入っており、国民の方々との接点となっている。国民運動を広げていくという意味で、このフォーラムの役割はあらためて大きいという印象を持った」と述べられました。

最後に、モデレーターの山根一眞氏が、

「このフォーラムは、産業界、官、流通、消費者が一つになってエコに立ち向かうという、しかも、経済活動としてそれをやっているというモデルとして、世界にアピールできるのではないかと思う。是非、お集まりの皆様も、それぞれの立場で、世界一の省エネ文化を目指して、活動を続けていただきたい」とまとめられました。



山根一眞氏

製品展示

最新の省エネ家電製品を展示

会場のホワイエでは、メーカー会員のご協力により、最新型の省エネ家電製品(エアコン、冷蔵庫、テレビなど)や省エネ照明器具・電球(電球形蛍光灯、LED照明・電球、Hf蛍光灯など)が展示され、多くの来場者に最新の省エネ製品情報を提供することができました。

各会員展示状況



・シャープ株式会社



・東芝キャリア株式会社
・東芝ホームアプライアンス株式会社



・ダイキン工業株式会社



・パナソニック株式会社



・三菱電機株式会社



・NECライティング株式会社



・日本照明器具工業会



・東芝ライテック株式会社



・日立ライティング株式会社



・パナソニック株式会社
ライティング社



・パナソニック電工株式会社



・三菱電機オスラム株式会社



・三菱電機照明株式会社



・省エネ出前授業実施学校パネル



・フォーラムWeb、
しんきゅうさん体験コーナー

展示会場内覧

下村会長をはじめ、省エネ家電普及促進フォーラムの役員が、増子輝彦 経済産業副大臣を展示会場にご案内し、増子副大臣は、最新の省エネ家電製品や省エネ照明を熱心にご覧になりました。



来場者の様子

多くの来場者の方が、最新の省エネ家電製品や省エネ照明をご覧になり、各メーカーから派遣していただいた説明員の説明に、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

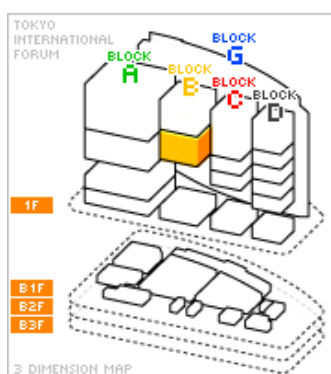


実施概要

- タイトル** : 省エネ家電フォーラム2009 省エネ家電で地球環境が変わる！！
 「つくる-えらぶ-つかう」の現場から未来を考える
主催 : 省エネ家電普及促進フォーラム
協賛 : 経済産業省
日時 : 2009年10月21日(水) 13:00～16:30
場所 : 東京国際フォーラム hall B5
目的 : 省エネ家電、省エネ照明の普及促進による地球環境対策の促進
 再生可能エネルギーと省エネ展開
参加者数 : 約250名(省エネ家電普及促進フォーラム会員、および一般)

実施会場

東京国際フォーラムhallB5



当日プログラム

時間(予定)	プログラム	内容	
13:45-14:10	はじめに	来賓紹介	経済産業省・環境省
		省エネ家電フォーラム役員紹介・選出	
		来賓挨拶	経済産業省・環境省
		新会長挨拶	家電フォーラム会長
14:10-14:40	第1部	省エネ家電 この1年 ～省エネ家電普及促進フォーラム、省エネあかりフォーラムの活動から～	
		(1)活動報告	事務局
		(2)今後の活動予定	事務局
		(3)普及に向けた施策	
		・エコポイント制度	METI
・しんきゅうさん	環境省		
14:40-14:50		休憩	
14:50-15:50	第2部	パネルディスカッション 「省エネ家電で地球環境が変わる！！」 ～つくる、えらぶ、つかうの現場から未来を考える～	パネリスト(5名) 経済産業省代表 製造事業者代表 販売事業者代表 消費者代表
		モデレーターによる課題提起とパネルディスカッション	モデレーター(1名)

上記ステージプログラムの他に、ホワイエにて省エネ家電の展示も実施

省エネ家電普及促進フォーラム 第3期 役員

会長・副会長:

会長 下村 節宏 財団法人家電製品協会 理事長
(三菱電機株式会社 代表執行役 執行役社長)

副会長 西田 厚聰 社団法人日本電機工業会 会長
(株式会社東芝 代表執行役社長)

大坪 文雄 社団法人電子情報技術産業協会 会長
(パナソニック株式会社 代表取締役社長)

有原 正彦 社団法人日本冷凍空調工業会 会長
(三菱重工業株式会社 執行役員 冷熱事業本部長)

恒川 眞一 社団法人日本電球工業会 会長 (省エネあかりフォーラム代表)
(東芝ライテック株式会社取締役社長)

松蔭 邦彰 社団法人日本照明器具工業会 会長
(パナソニック電工株式会社 常務取締役 照明事業本部長)

北原 國人 全国電機商業組合連合会 会長

宮嶋 宏幸 株式会社ビックカメラ 代表取締役社長

土井 栄次 上新電機株式会社 代表取締役社長

青山 理恵子 社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 副会長